

あすなろ

第 18 号

発行 弘前大学教育学部
同窓会
〒036 弘前市大字文京町 1
TEL. 0172 (36) 2111 代表
編集事務局
弘前市大字豊原一丁目 3 の 3
弘前市立第三中学校内
TEL. 0172 (36) 2361



弘前大学の 発展を願って

弘前大学教育学部同窓会
会長 木村 清之助

社会のいろいろな出来事やめまぐるしい変化に翻弄されたような平成八年も終り、弘前では珍しく雪の少ない穏やかな元旦を迎えました。会員の皆様いかがお過ごしでしょうか。

弘前大学では時代の変化に対応すべく、理工学部の新設に伴う大きな改組が行われようとしています。そして平成十一年を迎える弘前大学創立五十周年には、全学的な記念事業を実施することが決定しました。教育学部の校舎改築問題などを含めて、現在の文京キャンパスを中心にハード面、ソフト面共に大きく変貌を遂げることになるでしょう。

さて、教育学部では全国的な就学人口の減少に伴う教員数減少傾向の中、八年度教職への就職状況(講師を含む)は、全国四十九教員養成大学で七位という好成績を収めました。九年度も健闘が見られます。

これまでの関係教職員のご努力と共に、ご多忙の中 O B 各位による学生の指導などもあり、お喜びと共に厚く感謝申し上げます。

私的なことですが、現在登校拒否の子どもたちに関わって感じることは、年々その態様の変化に戸惑うことが多くなつたことです。また学校現場の先生方の声を聞き、ご苦労は大変なものだろうといつも推察しているところです。教員採用試験では全国的に人物を重視していると聞いておりますが、人口に膾炙した言葉ですけれども、まさしく「教育は人なり」で、この意味することをいまい一度初心に帰って、反芻してみたいものです。

会員の皆様、現職・OB 共にお元気で頑張ってください。また本会の活動により一層のご協力をお願いいたします。



丑年の年頭に際して

教育学部長 小澤 焘

教育学部同窓会の皆さま、平成九年の明るい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

今年には丑年ではありますが、私達の教育学部も創立以来四八回目の新年を迎えたわけであります。昭和二四年の丑年から四巡りの間、ゆっくりではありましたが、着実な歩で、学部、附属校園の整備充実を進めてまいりました。

そして現在では、小・中・養・幼・特看・養教の六教員養成課程、大学院教育学研究科、附属教育実践研究指導センター及び附属四校園を持ち、教職員二二〇名、学生・院生・児童・生徒等三二二四名の定員を擁する学部になり、毎年、社会の各分野へ有為の人材を多数送り出ししております。

これも常日頃より、学部の各般の事情について、同窓会から深くご理解をいただき、多大なご支援とご協力を賜りましたおかげであると感謝申し上げます。

ところで、近年の教育学部がおかれてある現実をみますと、学校教育・教員に対する社会の期待する面も変わりつつあり、また、急速な少子化の進行とそれに伴う教員需要の低下により、卒業生の教

員採用率が年々下がっております。

その結果、大学改革の一環として、新しい教育学部の在り方と規模の適正化が求められており、人文系学部等が無い大

学では、文化教育学部等への組織替えや国際文化課程等の新課程づくりも進んでおります。

この際、量より質を目指す一歩として、本学部から理工学部へ四〇名の学生定員を移動し、教養部から一四名の教官を迎えることにいたしました。

また、二県一教育学部構想がささやかれる昨今、弘前大学教育学部のアイデンティティーを保つために、まず、カリキュラム、入試、教室所属方式等の改善を図り、就職率の向上に努める必要があります。第二には、大学院全専修の早期完成を期し、第二には、教育実践総合センターへの格上げを実現して、この分野の強化を図るとともに、これらの事を構造的に捕らえ、機能させて行きたいと考えておりますので、本年も、どうぞよろしくご支援と御協力をいただけますようお願い申し上げます。

最後に、同窓会の皆さま方のご多幸をお祈り申し上げます、ご挨拶といたします。

平成九年度 教員採用試験について

本会の重要事業であり、発足以来継続してきた県教育委員会との定例懇談会が、委員会の事情により開催することができなくなりました。

そこで今年度からは教育学部から採用試験に関する情報を得てお知らせすることになりました。今年度から被服学教授の羽賀敏雄先生が就職対策委員長に就任されましたので、資料についてお世話をいたしました。

1 平成八年度就職状況
卒業生三三三名のうち教職についた者(講師等を含む)一八七名でした。

全国の教員養成大学四九校のベスト10は次のようになっております。

全国の平均は四四・三％で、弘前は七位となっています。教員以外への就職者は十五・九％です。

大学名	%
北海道教育	66.1
北海道教育	60.9
福島教育	57.9
上越教育	57.8
信州教育	57.3
愛知教育	57.3
高知	56.6
弘前	56.2
鹿児島	52.9
福井	52.6
和歌山	51.6

2 平成九年度教員採用試験について

○東北、北海道、関東などいずれの教育委員会とも高倍率です。

全体の競走倍率

北海道	4.8
札幌市	3.9
札幌市	6.0
青森県	9.1
青森県	9.1
岩手県	7.8
宮城県	8.3
宮城県	8.2
山形県	5.3
新潟県	5.3
新潟県	5.7
川崎市	9.1
横浜市	10.0
神奈川県	21.1
埼玉県	9.7
千葉県	9.7

○全般に退職者は減少傾向にあり、採用数も減少しています。

○複数免許は免許外教科解消のために歓迎されるが、採用試験の際にはあまりウエイトは高くない傾向があります。あくまでも人物重視で採用が決定されることになるでしょう。特に子供の同線のみでみることが出来る人物が求められているといえます。

3 平成九年度青森県教員採用試験結果
現役(一六七名)と既卒(一九七名)の合計について、過去五年間の推移を比較

	平成5	平成6	平成7	平成8	平成9	
受 験 者	受験者全体	1,788	2,019	2,256	2,375	2,573
	弘前大学	347 (19.4%)	368 (18.2%)	399 (17.7%)	431 (18.1%)	497 (19.3%)
受 験 者	教育学部	271 (15.2%)	274 (13.6%)	303 (13.4%)	322 (13.6%)	364 (14.1%)
	内定候補者	521 (29.1%)	406 (20.1%)	407 (18.0%)	448 (18.9%)	431 (16.8%)
受 験 者	弘前大学(弘大内合格率)	173 (49.9%)	135 (36.7%)	132 (33.1%)	136 (31.6%)	119 (23.9%)
	教育学部(学部内合格率)	150 (55.4%)	106 (38.7%)	107 (35.3%)	104 (32.3%)	91 (25.0%)
教育 学 部 内 訳	小学校	99	66	63	66	50
	中学校	37	28	36	23	27
	高等学校	3	5	2	4	3
	養護教諭	11	7	6	11	11

すると次のようになります。

○合格者の四五名は現役、四六名は既卒で、既卒者の割合が高いようです。

○二次試験での個人面接に重点を置くため、一次試験の合格者が多めになっているようです。面接重視の意味をよく理解しておく必要があります。

幼児教育学科教室だより

教室委員 野口 伐名

卒業生の皆様、お元気ですか。昭和48年に幼稚園教員養成課程が設置され、翌昭和49年4月に堀米勢吉先生を教室主任として幼児教育学科教室が発足してから、月日の経つのは本当に早いもので23年が経過しました。その間に昭和58年3月に堀米勢吉先生が定年ご退官され、その後任に山本正先生、昭和60年には待望の幼児心理学の学科目が認められて、菅野幸宏先生をお迎えして、幼児教育学科教室の様子も大きく変わりましたので、近況をご報告して見たいと思います。現在、幼児教育学科教室は、3名の専任教官で組織され、幼児教育(野口伐名教授)、幼児心理(菅野幸宏助教授)、保育内容の研究(山本正教授)の授業を担当し、学生諸君は3年次にそれぞれのゼミナールに所属することになっています。3人の教官の主な最近の研究課題は、戦後の混乱期にあった昭和21年の青森師範学校付属幼稚園の保育の考察(野口)、幼児期のふり遊びの観察を通して、ふりの共有がなされる過程の心理学的研究(菅野)、童謡特に大正期の持つ童謡の歌唱教材の歴史的考察(山本)などとなっています。教室の雰囲気については、「弘前大学教育学部・97」に、4年次の学生が次のような「教室紹介」を書いてあります。「この教室は幼稚園課程という

ことで、実際に小さい子どもたちと触れ合う機会も多く、みんな楽しみながらやっています。また、必修科目としてピアノ・歌・体育などがあります。心配はいりません。鍵盤を触ったことがなく運動が苦手な私たちもちゃんとやっていますから。でも、もしかしたら歌はカラオケよりはちよつと難しいかも知れませんが。」

平成6年度に大学院教育学研究科修士課程が発足し、幼児教育学科も学校教育の中の幼児教育分野として幼児教育講座を開講して、これまで以上に教室の充実と発展を期することができました。しかし残念なことに、少子少産時代を反映してか、院生がいけないことと幼稚園教員養成課程の学生定員が平成10年度から10名減となって一学年の学生定員が20名となったことです。ですが、教官、学生共々頑張っておりまして、今後也更なる発展に向けて同窓の皆様のご支援をお願いしたいと思います。卒業生の皆様も益々お元気で活躍ください。

各科教室だより

その1

心理学科教室だより

心理学科教室 豊嶋 秋彦

心理学科教室の現況をお知らせいたします。スタッフ数は変わりますが、前回紹介させていただいた時と顔ぶれが変わりました。平成6年、大内教授の後任に、宮教大から野呂教授をお招きし、十年三月の御停年まで主に大学院充実の任に当たっていたいております。

所属学生は中学校課程の「主専」生こそ一年生から四年生までで十七名に過ぎませんが、小学校課程心理学ゼミ(二年生から)所属学生は八十名を越え、大所帯に膨れあがります。

大学院には、六年度から順に二、四、八(今春予定数)名が入学。うち現職員が七、中国からの留学生三、他大学から三、学内他学部から一と、実に多彩な顔ぶれです。

近年の卒業生の進路状況は心理職への社会的ニーズの強まりもあって、「主専」生の場合、教職はほとんどなく、地方公務員心理職、少年院等で教育・矯正・カウンセリングを担当する法務教官、他大学の臨床心理学

や実験心理学の大学院などに進んでおります。「主専」生が他の大学院に進学するのは本大学院開設科目が現在かなり限定されているためです。

小学校課程学生の進路は教師が圧倒的に多数ですが、心理職、臨床や実験心理系の他大学院・研究生に進む者が毎年数名おり、数十倍の競争率の中、家庭裁判所調査官や法務教官になる小学校課程学生もでてきたことが特記できます。

スタッフの専門分野は次の通りです。

野呂 正 発達心理学・幼児心理学

遊びと精神発達の生態心理学、文化と子育て(日本・中国比較)

石川信一 発達心理学

発達心理学および児童心理学史、発達

概念・発達思想の歴史的展開

丹藤 進 教育心理学

学業成績と知能の発達、僻地児童を中心とした知能の時代的变化

豊嶋秋彦 教育心理学・生徒指導

学校不適応(いじめ、不登校)・大学の適応・職場適応の臨床社会心理学

平岡恭一 発達心理学・学習心理学

教師と生徒の人間関係、報酬による動物の構造化、ヒバ油と心理的ストレス

(なお丹藤教官は今年度から附属中学校校長に就任されております。)

教育保健講座 (養護学科教室) だより

教育保健講座 西沢 義子

卒業生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

昭和53年に養護教諭養成課程が教育学部に増設され、19年目になりました。今春3月には第16回生が卒業します。養護教諭の養成は昭和41年から養護教諭養成所で開始されましたので、この3月で卒業生は千余名になります。この間、開設当初からおいでのようになった武田壤壽先生、福士襄先生、高松むつ先生が御退官され、また大学院の設置もあり、教室の構成も変わりました。そこで最近の教室内の様子についてお知らせ致します。

当教室は7名の教官で構成されており、年長の教官は早川教授です。専門分野は心理学です。現在は「児童・生徒の身体理解に関する研究」に取り組んでおられます。また平成7年度からは附属養護学校長を務められるなど、重職に就いています。

次は盛昭子教授です。昭和41年の養護教諭養成所開設当初から勤務され、現教官の中で最も長い先生です。研究テーマは「養護の機能に関する研究」です。全国的に御活躍され、また卒業生からも信頼され、御多忙の毎日です。

平成6年度から赴任された佐藤雄一教授は小児科医です。研究テーマは「子どもと健康と病気に関する研究」です。学校保健に関して学んだり、積極的に行動

する姿勢は、私たちをとてても刺激してくれそうです。

やや若手(?)の部類に入るのは面澤和子教授です。研究のテーマは「健康教育の理論及び実践の分析・検討」です。現在は文部省在外研究員としてアメリカコロラド州デンバー市で研修中です。本年7月末まで不在です。帰国後は沢山の土産話を聞かせてくれることでしょう。

次は小玉正志助教授です。専門分野は解剖学です。現在「子どもたちの体位の変化」に興味を持って研究中です。テニス・スキーはプロ級で、合宿研修では学生にスキーの指導をしています。

最も若いのは太田誠耕助教授です。専門分野は「衛生学、公衆衛生学」です。学生からはとても信頼され、良き相談相手になっています。

私、西沢の専門は学校看護学です。現在の研究テーマは「児童・生徒の肥満に関する研究」です。小学校に出かけては、子どもたちの様子を観察しております。

平成6年度からは、教育学研

各科教室だより

その2

究科(修士課程)が設置されました。養護教諭の場合は保健体育専修の保健・養護系で学ぶこ

とができます。現職教員の枠もありますので、卒業生の皆様、是非おいで下さい。

教育学科教室だより

教育学科教室 佐藤 三三

同窓会の皆様、如何お過ごしでしょうか。また、教育学科教室の卒業生の皆様、お変わりなくお元気でお過ごしでしょうか。

教育学科教室の近況を教官の異動を中心に、とは申しましたも、勝手ながら私が赴任いたしました昭和51年4月以降の状況に即して、ご報告させていただきます。

昭和51年4月当時、教育学は最上太門先生、教育史に牧野吉五郎先生、教育制度は小澤熹先生、教育社会学を花田隆先生、そしてお茶の水女子大学に転任された小川剛先生に代わって社会教育は新任の佐藤三三が担当しておりました。その後、教育学の最上先生が東京家政学院大学に転任され(残念なことです)が2年前に亡くなられました。後任に村山正明先生が、また教育社会学の花田先生は退官され(退官後間もなく亡くなられま

た)、その後任に大坪正一先生が赴任いたしました。また3年前には教育史の牧野先生も退官され、後任として三沢博先生が着任いたしました。三沢先生は昨年3月を持って退官されました。従って現在は、小澤、佐藤、村山、大坪の4名で、近々教育史の後任を迎える準備を進めつつ、教育学科教室を構成しております。なお、牧野先生は学部長・学長を、小澤先生は現学部長として、教育学部・弘前大学の要職を担っております。

大学院修士課程もできました。毎年多くの院生を受け入れ、教室も一段と活気にあふれています。2年に1度、夏に、教室の同窓会・温志会を開いておりますので、その折りにでも是非一度、古巣の教育学科教室にお出かけください。

ところで目を社会に転じますと、教育システムのラジカルな改革、いじめのさらなる増加、心身の発達ゆがみ、史上最低といわれる教員就職率等々、課題山積であります。これらの解決のために同窓生の皆様とともに力を合わせて参りたいと、思いも新たにしている次第であります。

弘前大学 創立五十周年記念事業 後援会発足する

昭和二十四年五月に文理学部、教育学部、医学部の三学部で発足した弘前大学は、現在五学部で学生総数五八〇〇名を容するにいたりました。そして平成十一年には創立五十周年を迎えることになり、それを記念するための「創立記念事業実行委員会」が、吉田豊学長を委員長として発足しました。

これに伴い各学部同窓会や関係有志からなる「弘前大学創立五十周年記念事業後援会」を、去る八年十二月二十日設立し、記念事業を支援することになりました。次の方々が役員に選任されました。

会長 大道寺小三郎 (旧制弘高卒 弘大芸術振興会長 みちのく銀行頭取) (敬省略)

副会長 木村清之助 (教育学部同窓会長)

木村然二郎 (医学部同窓会理事 木村内科小児科医院長)

中尾 良仁 (農学部同窓会長 日赤県支部事務局長)

常任理事 工藤 弘毅 (理学部同窓会 県商工観光労働部出稼対策室総括主幹)

佐藤 アエ (医療技術短期大学部看護学

科同窓会長 鳥井野莊副施設長) 進 (旧制弘高卒 弘大名誉教授) 渋谷 久雄 (文理学部卒 みちのく銀行取締役人事部長) 西田 俊二 (人文学部卒 弘大生協専務理事) 林 美昭 (教育学部卒 弘前市都市計画部長) 広田 捷 (文理学部卒 弘大三学部の卒業生の集い事務局長 青森県企画部次長) 山地 功躬 (文理学部卒 青森銀行常勤監査役)

記念事業として次のことが決定しました。
1 記念ホールの建設
三〇〇人収容 音楽演奏会等が可能な規模 外観イメージは旧官立弘前高校の講堂 五十年史編纂資料を展示・保管する部屋 同窓会関係の事務室 場所は文京町キャンパス内を予定

2 記念式典
3 記念講演会
著名人による講演

4 祝賀会
5 五十年史の刊行
6 国際交流基金の設立
外国人研究者等の招へい 外国人留学生等への支援 国際研究室集会等の助成 教職員・学生の海外派遣への助成

7 弘前大学五十年史の刊行
以上のような事業ですが、これに要する総経費は七億二千八百四十万円が見込まれています。

平成 7 年度収支決算報告書

(7.4.1~8.3.31)

○収入の部			
	7 年度予算	7 年度決算	備 考
終身会費	4,950,000	4,976,230	15,000×27 14,890×307
繰越金	255,586	255,586	
雑収入	10,000	5,986	利子
計	5,215,586	5,237,802	

○支出の部			
	7 年度予算	7 年度決算	備 考
総会費	220,000	220,000	
評議会費	175,000	148,600	旅費を含む
支部活動費	500,000	500,000	50,000×10
会費徴収費	35,000	32,960	会費納入チラシ
通信費	70,000	55,830	総会案内、督促状 他
就職対策費	700,000	700,000	大学50万県教委20万
教生対策費	250,000	250,000	
大学院対策費	0	0	
特別対策費	200,000	200,000	
祝儀	150,000	120,000	卒業祝賀会他
会報	250,000	212,180	あすなる17号
新会員名簿印刷費	200,000	34,300	
基金	2,200,000	2,200,000	
事務費	200,000	200,000	事務謝礼 他
雑費	65,586	25,800	職員録 他
計	5,215,586	4,899,670	

平成 8 年度予算書

(8.4.1~9.3.31)

○収入の部			
	7 年度決算	8 年度予算	備 考
終身会費	4,976,230	4,950,000	15,000×330
繰越金	255,586	338,132	
雑収入	5,986	6,000	利子
計	5,237,802	5,294,132	

○支出の部			
	7 年度決算	8 年度予算	備 考
総会費	220,000	220,000	
評議会費	148,600	160,000	旅費を含む
支部活動費	500,000	500,000	50,000×10
会費徴収費	32,960	35,000	会費納入チラシ
通信費	55,830	70,000	総会案内、督促状 他
就職対策費	700,000	700,000	大学50万県教委20万
教生対策費	250,000	250,000	
大学院対策費	0	200,000	
特別対策費	200,000	200,000	
卒業祝賀会費	120,000	150,000	
会報	212,180	250,000	あすなる18号
新会員名簿印刷費	34,300	200,000	
基金	2,200,000	2,100,000	
事務費	200,000	200,000	事務謝礼 他
雑費	25,800	59,132	職員録 他
計	4,899,670	5,294,132	

平成 7 年度 定時総会 報 告

庶務報告

- 7. 6.10 平成7年度総会
- 7. 7.26 同窓会費納入依頼(1)
- 7.11.29 同窓会費納入依頼(2)
- 7.12.20 県教育委員会定例懇談会
- 8. 2.13 教育実習反省会
- 8. 3. 5 会報「あすなる17号」発行
- 8. 3.10 同窓会費納入依頼(3)
- 8. 3.21 弘前大学 卒業式・祝賀会
- 8. 4. 9 事務局打ち合わせ
- 8. 5.20 平成8年度総会案内状発送
- 8. 5.31 会計監査

☆ 教育学部(厚生係・会計係)との事務連絡は随時

事業計画

- 1. 総 会
- 2. 県教育委員との懇談
- 3. 会報「あすなる18号」発行
- 4. 弘前大学 卒業式・祝賀会
- 5. 教育実習反省会
- 6. 教育学部校舎改築の支援
- 7. その他

※ 特別会計基金 (1 年定期預金)

青森銀行	8,189,008 (8年8月24日満期)	みちのく銀行	7,606,837 (9年4月16日満期)
	+ 800,000 (今年度基金)		+ 1,400,000 (今年度基金)
合計	8,989,008	合計	9,006,837

平成八年度役員

名誉会長 小澤 熹(教育学部長)

顧問 斎藤 善三(弘前市)

会長 木村清之助(弘前市)

副会長 笹 良夫(青森市)

中川原兵威(八戸市)

竹内 照明(板柳町)

杉山 芬(青森市)

工藤 睦男(弘前大学)

塩原 鉄郎(弘前大学)

太田 耕止(南高校)

会計・監査

支部長

1. 弘前・中郡支部

2. 黒石・南郡支部

3. 五所川原・北郡支部

4. 西郡支部

5. 青森・東郡支部

6. 八戸・三戸郡支部

7. 三沢・十和田・上北郡支部

山田 誠司(下田中)

8. むつ・下北郡支部

9. 弘前大学教育学部支部

10. その他の地区支部

評議員

1. 弘前・中郡支部

小野 禎亮(弘前市)

今泉 徹三(弘前市)

赤石 和夫(弘前市)

高岡 實(弘前市)

鈴木 弘(弘前三中)

福島 一誠(相馬中)

佐々木利直(和徳小)

工藤 光男(石川中)

佐藤 忠蔵(致遠小)

奥崎 進(藤崎中)

花田 幸三(唐牛小)

成田 清一(浪岡中)

秋田 豊(弘前市)

高木 了司(女鹿沢小)

川村 拓(田舎館小)

奈良 武則(明徳中)

吉川 英樹(沿川二小)

野崎 正人(鶴ヶ岡小)

千葉 良一(弘前市)

三上健之助(柏小)

飯田 正志(岩崎中)

加藤 修司(森田小)

高橋 秀一(木造中)

斎藤 守(木造中)

赤坂 桂吾(車力小)

大坂 浩昭(沖館中)

久保 富男(北中)

奥崎 隆(浜館小)

佐藤 泰邦(浜田小)

玉熊 真雄(篠田小)

小松 喆(今別小)

横濱 盛昭(小湊小)

青山 栄明(横内中)

成田 誠二(日計ヶ岡小)

佐々木英治(長者小)

関根 建夫(剣吉小)

大庭 紀元(福地中)

奥田 卓司(下長中)

8. むつ・下北郡支部

石川 貞吉(奥戸小)

尾本 公英(大畑中)

竹浪 和夫(金矢沢小)

加世多寿雄(松川小)

松原 勝寿(脇野沢小)

斎藤 忠幸(南部中)

9. 大学教育学部支部

丹藤 進(教育)

平岡 恭一(教育)

盛 玲子(教育)

村山 正明(教育)

福士 兼義(附小)

清藤 紀子(附中)

大高 芳郎(附養)

斎藤 啓子(附幼)

常任委員

相馬 正栄(自得小)

伊藤 學(弘前市教委)

葛西 一誠(弘前三中)

葛西 紀一(三沢市教委)

立崎 庸夫(三沢高)

大久保忠昭(室ノ久保中)

菊池 良久(七戸中)

